

保護者等からの放課後等デイサービス事業評価の集計結果(公表)

記入年月日:令和4年2月15日

	チェック項目	はい	どちらとも 書えない	そう思わない	わからない	ご意見
環境・ 体制整備	1 お子さんの活動スペースが十分にあると思いますか	10	6	0	1	
	2 職員の数や専門性が適切だと思われますか	12	3	1	1	
	3 事業所の設備について、スロープや手すりの設置など、施設を使いやすいとする配慮が適切になされていると思われますか	10	4	1	2	
適切な 支援の 提供	4 お子さんや保護者の思いや課題を取り入れ、それを活かし、放課後等デイサービス計画(児童発達支援計画ⅰ)が作成されていると思いますか	13	3	1	0	
	5 活動プログラムⅱをお子さんの状況に合わせて変える工夫がなされていると思われますか	13	3	0	1	
	6 放課後児童クラブ、児童館との交流など、さくら教室以外の子どもと活動する機会が作られていると思われますか	3	6	3	5	
保護者 への 説明等	7 支援内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされていると思われますか	14	2	0	1	
	8 日頃からお子さんの状況を保護者と職員が伝え合いながら、子どもの育ちの状況や課題について共通理解ができていると思われますか	15	1	0	1	
	9 育児に関する助言、相談等の支援を必要に応じ受けられる状況であると思われますか	13	3	0	1	
	10 保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されていると思われますか	4	5	3	5	
	11 お子さんや保護者からの苦情への対応体制が整備され、それが、お子さん、保護者に周知・説明され、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応されていると思われますか	10	3	2	2	
	12 事業所職員と、お子さん、保護者との意思疎通、情報伝達のための配慮がなされていると思われますか	12	4	0	1	
	13 事業所は、会報、ホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報、業務に関する自己評価の結果を、子どもや保護者に対して十分に発信していると思われますか	13	4	1	0	
14 事業所は個人情報に十分に注意していると思われますか	15	2	0	0		
非常時 等の 対応	15 事業所の緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの内容について、保護者に十分、周知・説明されていると思われますか	12	1	1	3	
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われていると思いますか	8	2	1	6	
満足 度	17 お子さんは通所を楽しみにしていると思われますか	14	2	0	1	
	18 保護者は事業所の支援に対し満足しておられますか	14	2	0	1	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和4年3月31日

事業所名 児童発達支援事業所さくら教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	1		個別対応のスペースが持てるよう部屋割りなどを工夫する。
	2 職員の配置数は適切である	4			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	1	パーテーションで仕切ったりコーナーを確保したりして工夫している。	段差を解消できるよう改修出来る部分はしていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		こまめに清掃することを心掛けている。コーナー作り、動線、活動、生活の区分けをするよう努力している。カーペット等を利用し心地よい生活空間を作っている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	1	記録を日々取り、スタッフ全員で共有している。	職員が全員そろって話をする場が持たにくいので、定期的、意図的に機会を作っていく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		アンケートで得られた意見をもとに、業務改善している。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4		法人のホームページの当事業の紹介部分に公開	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4			
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	1		法人内では、療育に内容を絞った研修会が少ないので、外部のものも含め、積極的に研修に参加していきたい。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4		計画を立て、活動を実行する努力をしている。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4		スタッフ全員が、支援計画の案を見てから保護者に提示している。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	4			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		季節や年中行事に配慮し、活動設定をしている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	4			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		共有できるよう気づいたことは職員間で声掛けする努力をしている。朝礼で情報共有を行っている。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	1		打ち合わせの時間や場面を決め必ず出来るよう徹底していく。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		その日のうちに記録し、記述のみにとどまらないよう、担当スタッフの配置をし、責任を持って活動に活かせるよう努力している。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4				

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4		保育士、相談員、保育所など並行通園をしている施設などとの連携を取るよう努力している。	保健師、相談員との連携をより密に取り、利用児、保護者に有用な支援が出来るよう準備をしていく。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている					
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている					
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		引継ぎの会に相談員と共に出席し支援の充実を図るよう努力している。		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		引継ぎの会に相談員と共に出席し支援の充実を図るよう努力している。		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1	他の児童発達支援センターのST、OTから助言をいただいた。	コロナ禍ということもあり、連携が取れにくい部分があった。リモート会議を行ったこともあった。情報機器を利用した会議などでの研修を積極的に受けていく。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		4	並行通園の利用児が多く、個人は、他施設と活動を共にしているが、本事業所での交流はほぼない。		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	3			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		ノート、送迎時に対面で伝達している。課題になるようなことなど、保護者に伝えにくいこともある。		
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4		希望された保護者に対し、新型コロナウイルス感染症拡大防止策をとりながら行っている。		
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		利用契約時、契約内容変更時、書面を使いながら説明している。		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		意識を持つよう努力している。		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	3	コロナ禍にあり、積極的に会を開催することが出来なかった。		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		スタッフ内で、保護者の相談内容を共有し対応策を検討するよう努力している。		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		会報を定期的に発行し情報発信している。		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4				
	39	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		連絡ノート、面談を通じ意思疎通を図っている。		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		4		コロナ禍にあつて難しい部分があるが、今までと違った形での交流の仕方を考える機会とし、工夫をしていく必要がある。	

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4		利用開始前の聞き取り時に確認	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	2		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4		個別支援計画に身体拘束について記載し保護者に説明している。	